



東日本大震災14年
二つの被災地の課題と展望を探る
トークイベント

福島と岩手

震災伝承のかたち



福島県大熊町で帰還困難区域との境を隔てるフェンス(2024年10月撮影)



2019年1月、解体される大槌町旧役場庁舎

当日参加も
歓迎します

参加
無料

2025.3.9(日) 14:00
スタート

申し込みは
こちらから



大槌町文化交流センターおしゃっち

岩手県上閉伊郡大槌町末広町1-15



福島 小泉 良空さん
(ふたばプロジェクト職員)

1997年、福島県大熊町生まれ。中学2年の時に原発事故に遭遇し、会津若松市やいわき市に避難。2021年から双葉町のまちづくり会社「ふたばプロジェクト」の一員として、震災伝承事業に取り組む。同町にある東日本大震災・原子力災害伝承館で語り部も務める。

東電福島第一原発が立地し原発事故で全町避難を強いられた福島県大熊町と双葉町は、中間貯蔵施設を含む広大な帰還困難区域を抱え、人口回復が進みません。一方の岩手県大槌町は東日本大震災の津波と火災で中心街が壊滅。住民の8%に当たる1286人が犠牲になり、災害に強い町づくりが求められています。

いずれの被災地も津波と原発事故の複合災害に見舞われた点で共通しますが、それぞれ特有の課題も顕在します。

震災から14年が経過し体験や記憶の風化が叫ばれる今、震災伝承の現場で活動する人たちは何をどう伝えようとしているのでしょうか。

パネル展「原発事故14年 福島『避難』のかたち」(大槌会場)にちなみ、同展にも登場する、双葉町で語り部活動などを行う大熊町出身の小泉良空(みく)さん、大槌町役場職員の兄や両親らが津波の犠牲になった大槌語り継ぐ会代表の倉堀康さんを招き、震災伝承の課題と展望を探ります。



岩手 倉堀 康さん
(大槌語り継ぐ会代表)

1983年、岩手県大槌町生まれ。東日本大震災の津波で両親と祖母、役場職員の兄を亡くす。遺族として旧役場庁舎の保存、解体を巡って積極的に発言。2023年に「大槌語り継ぐ会」を立ち上げた。24年、民間施設「大槌伝承の館」を開き、館長に就任。防災士。